

【目指す姿】

ふるさとを好きになり、大切にする子

	評価項目	評価基準	1学期		2学期	
			評価	分析及び考察	評価	分析及び考察
成果及び教育活動	○地域の様々な文化的資源とかかわる活動を通して、ふるさとを好きになり、大切にしていこうとする児童が増える。	・職員アンケートで目指す姿を達成した児童の割合が全体の85%以上。 「活動を通して、地域の人や自然のよさが分かり、それを大切にしていこうとしている。」 ・児童アンケートで目指す姿を達成した児童の割合が、全体の85%以上。 「生活科・総合的な学習の時間などから、浦佐のよいところを言えますか。」 →両方とも達成のときA評価 (参考)保護者アンケート 「地域のよいところを言える。」	教師 89.5 % 児童 68.8 % (参考:保護者) 70.7 %	＜取組評価：B＞ ・それぞれの学年がたくさん地域とかかわる活動をすることができた。 ・1学期は地域を「知る」段階でもあるため、達成率は低かった。2学期以降、文化的資源や自然とのかかわりを更に増やし、活動を深めていけるよう工夫していく。 ・学期を追うごとに達成率が上がっていくことをねらっているため、2学期以降の活動を通して児童が地域のよさを更に知ることができるよう努める。	教師 72.2 % 児童 77.6 % (参考:保護者) 77.8 %	＜取組評価：B＞ ・児童と保護者の評価が上がったのに対して、教師の評価が下がった。どの学年もたくさんの活動を設定していたが、地域のよさに目を向けることや、まとめの段階で教師が意図する成果が得られなかったことが原因と考える。 ・地域について、生まれた時から生活している環境である児童が多い。そのため、新鮮に感じるものが少なかったり、新しい発見につながりにくいことも考えられる。教師が伝えたい「浦佐のよさ」をはっきりとみつことができるよう、職員研修等を重ねていく。
	○外国の文化にかかわる活動により、相手の思いを受け止めたり、自国の文化や伝統のよさに気付いたりする児童が増える。 ○異なる文化をもつ人々とかかわりにより、相手の思いを受け止めたり、多様な考えや文化があることに気付いたりする児童が増える。	・職員アンケートで目指す姿を達成した児童の割合が全体の85%以上。 「活動を通して、自国の文化や伝統のよさが分かり、感じている。」 ・児童アンケートの結果から、国際科の評価基準を達成した児童の割合が全体の85%以上。 「国際科の活動や外国の友達との活動は楽しいですか。」 →両方とも達成のときA評価 (参考)保護者アンケート 「国際科の活動や、外国の友達との活動を楽しんでいる。」	教師 68.4 % 児童 86.0 % (参考:保護者) 82.2 %	＜取組評価：B＞ ・留学生訪問や外国籍児童とのかかわりを通して、外国の文化に触れることができた。 ・国際科の活動では、児童の実態に合わせて単元の内容を考えるなど、工夫して活動を設定することができた。 ・「自国の文化や伝統のよさ」を感じる活動を設定することは容易ではない。しかし、様々な教科と関連付けて知ったり、感じたりできるよう活動を工夫していく。	教師 77.8 % 児童 89.2 % (参考:保護者) 71.8 % %	＜取組評価：B＞ ・新しく外国籍児童が増え、学校のことを教えたり歓迎会をしたりと、積極的ににかかわる様子が見られた。 ・留学生訪問や外国籍児童の自国紹介など、興味深そうに聞き入る児童が多く見られた。外国籍児童についても、自国のよさを知ってもらうよい機会となった。 ・保護者アンケートの達成率が下がった。ホームページで国際科の様子を発信しているが、外国籍児童とのかかわりの様子がなかなか保護者に伝わらないことも一因であると考える。
運営活動	○地域とかかわる活動や振り返る場を設定する。(感謝を伝えるなど) ○地域とかかわる活動の充実を図るために、職員研修を行う。(情報交換など) ○国際理解の活動など異なる文化をもつ人々がかかわる場を設定する。	○職員アンケート「地域とかかわる活動や活動の振り返り・まとめの活動を行った。」 ・世話になった方に、お礼の手紙を書く場を設定する。 ・3月の生活目標「感謝の気持ちを伝えよう」(こころ部と連携)に関連させた活動を設定する。 ○地域人材(浦佐地域づくり協議会等も含む)を活用する。 ・人材バンクの整備 ・学期末毎に指導計画を見直す。 ○地域とかかわる活動の充実を図るために、職員研修を実施する。 ・「生活科・総合的な学習の時間に関する校内研修」(実践発表と質疑・情報交換)を実施する。(「総合」部と連携) ○職員アンケート「異なる文化をもつ人々がかかわる場を積極的に設定したか。」		＜取組評価：B＞ ・地域とかかわる活動や振り返りの場を設定することができた。 ・児童の意識を継続させるため、各活動の実施後に活動を振り返るようにしてきた。引き続き、意識的に取り入れるようにする。 ・地域コーディネーターと連携し、活動の充実を図った。複数の学年で連携し、取り組むことができた。 ・全員での職員研修は行わなかったが、学年ごとに事前に下見に行ったり、地域人材を活用したりすることができた。 ・人材バンクや指導計画を学期ごとに見直し、加筆修正を加えていく。 ・各学年が国際科や国際理解教育の活動を工夫することができた。		＜取組評価：B＞ ・どの学年も活動から学んだことを振り返ったり、まとめたりする場を設定することができた。 ・それぞれの学年が必要な下見や打合せを実施したことで、活動を充実させることができた。 ・人とかかわりを通して、感謝の気持ちを伝えることを意識させてきた。引き続き、保護者や地域の方等と連携しながら取り組むようにする。 ・全職員での研修実施は難しかった。しかし、活動内容の記録や人材バンクへの加筆修正などに取り組んだ。引き続き、実践を蓄積し、次年度に生かしていく。 ・各学年が国際科や国際理解教育の活動を工夫することができた。